

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期					
一	イチ イツ ひと ひとつ													
教1 常①		甲骨	毛公鼎	睡虎地秦簡	説文・一部	馬王堆	乙瑛碑	十七帖	蘭亭序	高貞碑	九成宮	五経・一部	那須國造碑	
七	シチ なな ななつ なの													
教1 常①		甲骨	金文	睡虎地秦簡	説文・七部	居延漢簡	乙瑛碑	十七帖	集字聖教序	孫秋生造像	孔子廟堂碑	五経・序	稲荷山鉄剣	
丁	チョウ テイ													
教3 常①		甲骨	金文	包山楚簡	説文・丁部	居延漢簡	禮器碑	孫過庭	智永	張猛龍碑	皇甫誕碑	九経・序	聖武天皇集	
下	カ・ゲ した・しも・も と・まげる・さ がる・くだる・ くだす・くだま る・おろす・お りる													
教1 常①		甲骨	包山楚簡	泰山刻石	馬王堆	禮器碑	十七帖	集字聖教序	魏靈藏造像	九成宮	五経・序	法華義疏		
下														
三	サン みみつ みつつ													
教1 常①		甲骨	大孟鼎	睡虎地秦簡	説文・三部	居延漢簡	乙瑛碑	十七帖	集字聖教序	張猛龍碑	九成宮	五経・序	法華義疏	
上	ジョウ ジョウ うゑ・うわ かみ・あげる ・あがる・の ぼる・のぼす ・のぼす													
教1 常①		甲骨	戦国・金文	説文古文	馬王堆	乙瑛碑	十七帖	集字聖教序	始平公造像	九成宮	五経・序	法華義疏		

【七】「十」と字体衝突した結果、縦線を曲げるようになったのであろう。当用漢字字体表では康熙字典や当用漢字表と同じように最終画を上にはねているが、教育漢字は止めている。説文の大徐本には「陽之正也」、段注本には「易之正也」とある。

【丁】説文解字の大徐本と段注本で字体が微妙に異なる。【下】説文解字の大徐本と段注本の字体と部首が異なる。大徐本に先に出てくる字体と段注本の篆文として後から出てくる字体が同じ。大徐本の篆文と泰山刻石の字体が合致。段注本と甲骨や鉄器の字体が合致。段注本の部首は「二」の字体だ

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考

が「上」という意味。【上】説文解字の大徐本と段注本の部首と字体が異なる。段注本の古文は甲骨や金文や康熙字典の古文の字体と合致。段注本の部首は「二」の字体だが「上」という意味。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

【一】²丈²与³丑⁴不⁴且

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隷書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
丈	ジョウ たけ		𠄎	丈	丈		丈	丈	丈
丈	③		𠄎	丈				丈	丈
万	マン よろず						万	万	万
萬	マン よろず	𠄎	𠄎	萬	萬	萬	萬	萬	萬
与	ヨ あたる あずかる くみする		与	与	与	与	与	与	与
與	あたる あずかる くみする	𠄎	𠄎	與	與	與	與	與	與
与		𠄎	与	與					
丑	チュウ うし	𠄎	𠄎	丑	丑	丑	丑	丑	丑
丑	④		𠄎	丑					丑
不	フブ ず	𠄎	𠄎	不	不	不	不	不	不
不	④		𠄎	不					不
且	ショ かつ しばらく まさに	𠄎	且	且	且	且	且	且	且
且	④		且	且					且

【丈】「支」と字体衝突し、漢代に字体を変更したのでろう。「丈」の点は「咎なし点」で付けても付けなくても良い。
 【万】「万」と「萬」は別字だが古くから通用し、干祿字書も両方とも「正」とする。もう一つ関連する文字に「卍」がある。この字も「マン」と読む。「マン字」が「マンジ」と読まれ

るようになったようだ。漱石はほとんどの場合「萬」を使い、『坊っちゃん』で「万」を使ったのは「廿万石」の1回だけ。太宰治もほとんどの場合「萬」を使い、『人間失格』で「万」を使ったのは「万一」の1回だけ。
 【与】「与」と「與」は別字だが通用する。当用漢字表では「與

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
丈	丈	丈	丈	丈	丈		丈	丈	丈	丈		丈
	丈			丈	丈							丈
	丈			丈	丈							丈
万	万	万	万	万	万			万	万	万		万
	万			万	万							万
	万			万	万							万
	万			万	万							万
与	与	与	与	与	与				与			与
	与			与	与							与
	与			与	与							与
	与			与	与							与
丑	丑	丑	丑	丑	丑							丑
	丑			丑	丑							丑
	丑			丑	丑							丑
	丑			丑	丑							丑
不	不	不	不	不	不							不
	不			不	不							不
	不			不	不							不
	不			不	不							不
且	且	且	且	且	且							且
	且			且	且							且
	且			且	且							且
	且			且	且							且

が掲載されていたが、当用漢字字体表で「与」が採用された。「与」は多くの漢和字典では「一」の2画だが、康熙字典では「一」の3画で、字体も異なる。最終画の横線が右に突き出るのは江戸以降か。拓本の干祿字書は不鮮明なので江戸期の版本をあげる。

【且】説文の大徐本には古文がないが段注本にはあるので掲載した。康熙字典の古文と合致する。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
丘	キュウ おか								王勃詩序
世	セイ よ								聶翁指歸
世	教3 常①								
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									
世									

【1】³中⁶【、】²丸³⁴主⁴【ノ】¹乃²久

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
中	チュウ ジュウ なか あたる うち	中	中	中	中	中	中	中	中
		中	中	中	中	中	中	中	中
		中	中	中	中	中	中	中	中
串	カン セン くし なれる つらぬく								
丸	ガン まる まるい まるめる								
丹	タン にあか								
主	シュ おも ぬし あるじ								
井	タン トン どんぶり どん								
乃	ノ ダイ ナイ すなわち の								
久	キュウ ク ひさしい								

【中】説文の大徐本と段注本の字体が異なるが古文は同じ。段注本には籀文が載っていない。大徐本の籀文の字体が康熙字典の古文に合致する。

【串】殷代の金文や楚簡に「串」の字体の例があるが、字種が異なる可能性があるので掲載しなかった。

【丸】点の位置に注意。『康熙字典』では「凡」に似た字を正字とし、通用字体を俗字としている。漱石は江戸版本と同じ字体を書いている。直井潔「国定教科書に於ける正字俗字一覧表」では「文部省に於いて特に正体を捨てて俗體を取りれたるもの」としている。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
中	中	中	中	中			中	中	中	中	中	中
		中										中
串	串	串	串				串					串
丸	丸	丸	丸	丸	丸		丸	丸	丸	丸	丸	丸
丹	丹	丹	丹	丹			丹	丹	丹	丹	丹	丹
主	主	主	主				主	主	主	主	主	主
井	井		井				井	井				
乃	乃	乃	乃	乃			乃					乃
久	久	久	久	久	久		久	久	久	久	久	久

【丹】太宰は「丹」よりも「丹」に近い。説文篆文に従えば点に落ちる音という説もあり。は横線になるはず。

【井】2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。「どんぶり」という意味で使うのは日本独自。中国では「井」と「井」は異体字でどちらも「井戸」のこと。「どんぶり」とは物が水

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期			
之	シの これゆく 人①											
		甲骨 散氏盤	包山楚簡	馬王堆	乙瑛碑	十七帖	蘭亭序	高貞碑	九成宮	千祿・序	王勃詩序	
		甲骨 金文	里耶秦簡	段注・之部	馬王堆							
		甲骨 石鼓文	睡虎地秦簡	居延漢簡								
乎	コ 人①											
		甲骨 大克鼎		馬王堆	孔宙碑	智永千字文	集字聖教序	鄭義下碑	九成宮	千祿・序	王勃詩序	
		史頌殷		馬王堆			張猛龍碑					
		金文		居延漢簡								
乍	ながら ①											
		甲骨 大孟鼎	子彈庫楚帛	説文・亼部		書譜	集字聖教序	石門銘	雁塔聖教序	九經一節(漢文)	杜家立成	
		殷・金文								九經一節(隸初)		
乏	ボウ とぼしい 常①											
				説文・正部	馬王堆	武威漢簡	淳化閣帖	金光明経卷二	破邪論序	九經一節(漢文)	王勃詩序	
					居延漢簡					九經一節(隸初)		
乗	ジョウ のせる 教3常①											
		甲骨 號季子白盤	睡虎地秦簡	説文・榮部	馬王堆	封龍山頌	元趙孟頫	興福寺斷碑	鄭義下碑	孔子廟堂碑	五經一節(漢文)	王勃詩序
乗	人②											
			睡虎地秦簡	説文古文	居延漢簡	熹平石経				雁塔聖教序	五經一節(隸初)	
			包山楚簡									
乙	オツ イツ おと まの と 常①											
		甲骨 金文	睡虎地秦簡	説文・乙部	居延漢簡	乙瑛碑				高貞碑	瑠玉集	

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
之												之 中国・台湾
		部首・画数	ノ 3	坊っちゃん								之 香港
			古文									
乎												乎 中・台・香
		節用	ノ 4	坊っちゃん								
乍												乍 中・台・香
		絵本職師団	ノ 4									
乏												乏 五経文字 中国・台湾
		節用	ノ 4	坊っちゃん								乏 香港
乗												乗 中国・香港
		節用	ノ 8	坊っちゃん	教科書(俗字)					×		乗 段注・榮部 中国・香港
												乗 段注古文 台湾
			古文									
乙												乙 中・台・香
		節用	乙 0	坊っちゃん								

【之】大徐本と段注本の字体が異なる。大徐本の字体に対応する明朝体の字体が康熙字典では古文になっている。

【乗】大徐本と段注本の字体がわずかに異なる。説文と康熙字典の字体が合致しない。

【乏】説文篆文の字体が左右反転しているようだ。五経文字には「乏」一例しか載っていないが、九経字様に説文篆文に従った字体が追加されている。